

北九州 GX Day 2026.2.9

ものづくり企業の進化と サステナビリティ経営の実践

～『〈FFG〉 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』活用事例～



株式会社ROCKY-ICHIMARU

代表取締役社長 市丸 寛展

世界シェアトップの技術力を基盤にサステナビリティ経営に舵を切る

ROCKY-ICHIMARU は、『タイヤ加硫機用バルブ』のグローバルニッチトップ企業。
1978年の設立以来、高度な流体制御技術で世界のタイヤ製造を支えています。

国内
シェア **90%**以上

世界
シェア **30%**前後

株式会社 ROCKY-ICHIMARU

所在地: 〒833-0016 福岡県筑後市大字常用 601
主な事業: タイヤ加硫機用バルブやタイヤ製造機器・70MPa高圧油圧機器
設立: 1978(昭和53)年11月1日
従業員数: 89名(2024年4月30日現在)

グループ会社

株式会社 KONNOPRO: ターボ分子ポンプの部品や精密部品、ダイヤモンドコアビット製造
株式会社 新栄精工: 産業機械向け精密切削および研削加工
株式会社 ウインタック: 自動車・産業機械向け精密部品の製造
株式会社オオヤマフーズマシナリー: 米菓や餅などの食品製造機械・生産ラインの設計・製造・据付



 **ROCKY-ICHIMARU**



転換点：PIF（Positive Impact Finance）との出会い・道のり



2022年度～2023年度

サステナビリティ経営への舵切り

- ・ **2022年2月:** 基本方針の一つに「サステナビリティ経営の推進」を掲げる。
- ・ **2023年3月:** 福岡銀行「SDGs私募債」発行（5,000万円）。
- ・ **動機:** 採用市場での選好性向上、主要顧客（タイヤメーカー）からのCO2削減要求への先行対応。



2024年1月～2024年6月

具体策の模索と基盤整備

- ・ **1月～6月:** シンワラボ社とコンサル契約締結。
- ・ **4月:** サステナビリティ基本方針制定・委員会設置決議。
- ・ **6月:** 長期ビジョンRI-Vision2030、中期経営計画RI-Plan2026策定。



2024年11月29日

PIF締結：経営変革の加速

- ・ **PIF契約締結:** 福岡銀行と3億円の契約（借換）。
- ・ **価値の転換:** 資金調達以上に、独自のESG評価「Sustainable Scale Index」による「経営の外部診断」と「伴走支援」に価値を見出す。
- ・ **12月:** 全社員向けSDGs勉強会実施。

△ 課題

個別施策は進むが、全体像や納得感のある
KPI、スケジュールが不明確な「統合の悩み」

「よくある中堅製造業の状態」= 戦略なき個別対応の連続

背景：グローバルサプライチェーンからの「脱炭素」という必達要件

🌐 主要顧客の2050年カーボンニュートラル目標

- 大手タイヤメーカー各社が掲げる脱炭素目標。サプライヤーへのCO2削減要求は、もはや「努力」ではなく「取引の前提条件」へ。

📈 競争力の再定義

- 主要顧客では、カーボンニュートラルに向け生産プロセスの見直し・設備更新が本格化。（環境対応の遅れは、グローバル市場におけるシェア喪失に直結）
- 一方で、技術力に加え「環境価値」まで含めて提供できる企業は、新たな競争優位を獲得できる時代に。

意識の転換

「環境対応はコスト」から

「事業成長と競争力強化につながる戦略的投資」へ

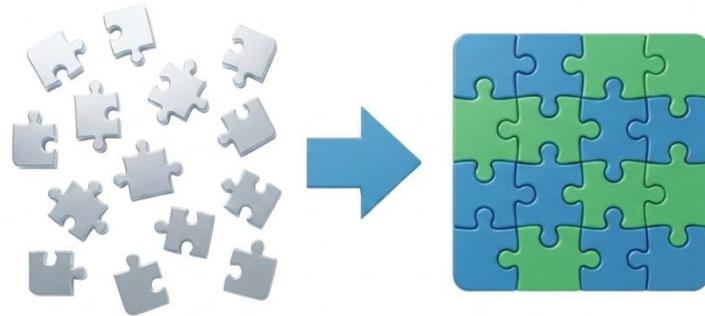


PIFがもたらした変化： サステナビリティを“経営管理”に組み込む

PIF = 「経営の設計図」

PIFは、外部評価を通じて経営課題を整理し、実行順序を決定する「経営の設計図」としての役割を果たしました。

- 個別施策 → 経営戦略との統合
- 努力目標 → 必達の経営指標
- 経営の外側 → 経営管理の核心



FFG サステナブルスケール社による
客観的な評価と伴走支援が、この質的転換を可能に

外部診断プロセスを通じて 「成長を加速させるために、優先すべき重要課題」を明確化

⊕ ポジティブな影響例

- ✓ 高品質バルブによるタイヤ製造の効率化と安全性向上
- ✓ 地域における安定した雇用の創出と維持
- ✓ 次世代育成・教育支援を通じた地域社会への貢献

⊖ ネガティブな影響例

- × 製造工程における温室効果ガス(GHG)の排出
- × 金属材料等の資源消費と廃棄物の発生
- × サプライチェーンにおける環境負荷

このプロセスにより、単なる「社会貢献(CSR)」ではなく、
「成長を加速させるために、優先すべき重要課題」が明確に。
ESG用語を経営言語に翻訳することで、全社的な実行力が生まれた。

PIF でコミットしたKPI

E:環境

- ▶ **2024年度**
CO2排出量の毎月算出体制構築
- ▶ **2025年度**
「中小企業版SBT認証」取得
「再エネ100宣言 Re Action」取得
- ▶ **2026年度**
再生可能エネルギーへ50%切替
- ▶ **2030年度**
CO2排出量 50%削減（2024比）

S:社会

- ▶ **2024年度**
男性育休取得率 100%
- ▶ **2025年度**
BCP策定完了、健康経営優良法人
認定、有給7日以上
- ▶ **2026年度**
女性管理職1名増、管理職研修開始
- ▶ **2028年度**
ダイバーシティ人材2名以上採用

G:経済・ガバナンス

- ▶ **継続**
ISO9001認証の維持
- ▶ **2025年度**
新商品開発プロジェクト始動
(再利用しやすいバルブ等)
- ▶ **2026年度**
新商品を1シリーズリリース

PIF を通じた「経営指標」へ昇華

環境だけでなく、「人」「事業継続」「製品開発」を同時に進めるためのKPIを設計

PIFを通じて、単なる努力目標ではなく、「**必達前提の経営指標**」として設定

Action1: 迅速なGX投資判断

グループ全体のCO₂排出量の見える化に向けた活動

GHG排出量を算定・可視化するクラウドサービス「Zeroboad」を活用し、毎月グループ全体のCO₂排出量算定・把握し、削減に向けた基盤を整備。省エネルギー施策や再生可能エネルギー活用をスタート。

再エネ導入・太陽光発電

実質支払金額: 約1000万円

第3・4・5工場の屋根に太陽光発電設備を設置
(2024年12月決議、2025年3月設置)

投資効果

2025年夏期(7-8月)におけるCO₂排出量

約**20%**削減

ハイブリッド運用

- ・自家発電(第3工場の一部)
- ・屋根貸し20年間(第3工場の一部、第1&第5工場)

PIF締結から1ヶ月でのスピード決議。

明確な環境KPIが、投資判断の強力な後押しとなり迅速な効果に

Action2 : 供給責任を果たすレジリエンス強化

事業継続:BCPの策定

2025年3月 BCP(事業継続計画)の策定完了

2025年3月に策定を完了し、4月より運用開始。災害時における**製品の安定供給体制**をハード・ソフト両面で整備。

2025年6月「事業継続力強化計画」の認定取得

2025年6月5日、九州経済産業局より認定を取得。国の基準に適合した強靱な経営基盤を対外的に証明。グループ会社(KONNOPRO)も10月15日に認定取得。

組織基盤:健康経営

2025年5月 健康経営優良法人2025の認定

社員の健康を経営資源と捉え、戦略的に投資。高いエンゲージメントが、不測の事態における**組織の復元力**を支える。

働きやすさの追求

2025年度より**有給休暇取得7日以上を義務化**。持続可能な組織づくりを、事業継続の不可欠な要素として位置づけ。

単なる認定取得を目的にしない

グローバルサプライチェーンの一翼を担う企業として、

「非常時でも供給を止めない」ことを経営の前提条件として明文化

Action3 : 人的資本への投資: 多様性と次世代育成

ダイバーシティ&ワークライフ

男性育休取得率 100% の維持 (2024年度~)

2024年度より継続。性別を問わず育児と仕事を両立できる環境を整備し、**優秀な人材の定着と意欲向上**を実現。

女性活躍と多様な採用

2026年度までに女性管理職を1名増員。2028年度までにダイバーシティ人材(外国人・障がい者等)を2名以上新規採用。多様な視点を経営に取り入れ、**組織の柔軟性と創造性**を高める。

次世代育成&地域貢献

階層別研修制度の構築

2025年度に役員・部長向け、2026年度に課長向け研修を開始。次世代の**経営人材育成**を加速。

資格取得支援の制度化

2025年度までに**資格手当・支援制度**を構築。社員のスキルアップを組織としてバックアップ。

人的資本の充実は、PIF で設定した

「**社会インパクト**」の核心であり、長期的な企業価値向上の源泉

Action4 : 環境配慮型製品への転換とイノベーション

💡 製品革新: 環境価値の創出

2025年度 新商品開発プロジェクト始動

製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を目指す。特に「**再利用しやすいバルブ**」の開発に注力。

2026年度 新商品1シリーズリリース

PIFの経済面KPIとして設定。環境対応を新たな競争優位性に変え、グローバル市場でのシェア拡大を目指す。

🔍 信頼の基盤: 品質とガバナンス

ISO9001認証の継続と高度化

グローバル基準の品質管理体制を維持。環境対応と同時に、製品の「**長寿命化**」と「**高信頼性**」を両立させ、顧客のエネルギーロス削減に寄与。

金属リサイクル率 100% の継続

製造工程における廃棄物削減を徹底。循環型ものづくりのモデルケースとして、高いリサイクル率を維持。

これらの製品開発ロードマップは、PIF の
経済面のKPIとして定期的に進捗をモニタリング

成果: PIFがもたらした「個別最適から全体最適」への転換

経営変革の触媒としてのPIF

同時並行での変革を実現

もしPIFがなければ、GX投資、BCP策定、人的資本経営といった施策は**個別最適のまま、これほどのスピードで進むことはありませんでした。**

「設計図」による統合

PIFという「経営の設計図」が、バラバラだった施策を一つのストーリーに統合し、全社的な推進力を生み出しました。

実効性を担保する推進体制

- ✔ **サステナビリティ委員会の設置 (2024年4月)**
社長直轄組織として、四半期ごとにKPIの進捗を経営レベルで厳格にモニタリング。
- ✔ **外部専門機関との伴走支援**
サステナブルスケール社と連携。客観的なアドバイスを経営判断に反映。
- ✔ **全社員への浸透 (2024年12月)**
勉強会を通じ、トップの決意を現場の「自分事」へ。

成果と未来: 経営の質的变化と「共創コミュニティ」の構築

経営の質的变化(社内)

🔍 透明性と信頼の向上

KPIの公開と外部診断により、ステークホルダーからの信頼が向上。採用市場での競争力も強化。

👤 社員の意識改革

「自分たちの仕事が社会にどう貢献するか」が数値化され、現場のモチベーションが向上。

🛡️ リスク管理能力の進化

BCP策定やCO2削減の見える化を通じ、不確実な時代を生き抜く「レジリエンス」を獲得。

共創コミュニティ(社外)

単なる「発注・受注」を超えたエコシステム



PIF を単なる資金調達的手段ではなく、

「企業経営をグローバル基準へアップデートする」強力なエンジンとして活用する

未来:HD化・IPOを見据えたグループ成長戦略

長期ビジョン RI-Vision 2030

ユニークな顧客価値を共創する グローバル企業集団になる

2024年6月策定。4つの基本方針(既存事業の深化、新規事業の探索、経営基盤の強化、サステナビリティ経営の推進)を掲げて、グループ全体の成長を加速。

サステナビリティ経営を強みに、M&Aを通じたサプライチェーン全体の底上げと企業価値向上を追求。

グループ全体へのノウハウを展開

PIFで培ったCO2算出やBCP策定の知見を子会社へ展開。
例: KONNOPROの事業継続力強化計画認定

新栄精工(株)

(株)ウインテック

(株)KONNOPRO

(株)オオヤマフーズマシナリー

ガバナンスの進化

🏢 ホールディングス(HD)体制への移行

グループ経営の機動力と透明性を向上。M&Aで拡大したグループ各社のシナジーを最大化。

🏆 数年後のIPO(新規上場)への挑戦

社会的公器としての責任を果たし、さらなる成長資金と人材を確保。

社会的責任を先行して整備

GX・ESGの仕組みを通じ、「上場企業として求められる社会的責任」をPIFにより先行的に構築。

ものづくりを進化させ、
持続可能な社会の実現に貢献する



 www.rocky-ichimaru.co.jp